生きる

真宗大谷派　存明寺通信

NO.200

2021年(仏歴2552年)３月10日発行

『生きる』200号記念特別号

存明寺の寺報『生きる』誌がついに２００号を迎えました。まだ若い頃、仏教の学校の先生から「お寺に帰ったら寺報を発行しなさい」と言われたことがありました。

その後、先輩僧侶の方々の寺報に触れて刺激を受け、１９８６年２７歳の時に『生きる』創刊号を発行した次第です。あれから３５年。

紙面は、お寺の行事案内や報告、教えの言葉や住職の受け止めなど、なるべくわかりやすく書くように心がけてきました。出来はともかく。

生きることとは、表現し続けること。これからも人に出会い、教えに出会い、親鸞に出会うという歩みを通して、表現し続けていきたいと思っています。合掌（住職・釋諦信）

存明寺のHPはこちらから↓

親鸞と出遇うお寺

https://zonmyoji.jp

『生きる』２００号に寄せて

私の帰るべき原点

住職　酒井義一

ささやかな寺報『生きる』が２００号を迎えるにあたって、今までいろいろな方から教わってきた紙面作りの「原点」を確認してみたいと思います。そして、原点を忘れた時にいつでも立ち返れるように、自分へ言い聞かせてみたいと思います。

その原点とは、「寺報作り、５つのポイント!!」です。

１　語りかけるように書く

難解な表現ではなく、目の前の人に語りかけるようにして書く。

２　私が響いたことを

どこかの誰かからの受け売りの文章ではなく、私が感じたこと、私に響いたことを書く。

３　教えに道をたずねて

私が歩むべき道はどこにあるのか、そのことを仏さまの教えにたずねていく姿勢を忘れずに。

４　字数を守る

書く時は字数をわきまえてコンパクトに、語る時は時間を守る、これはこれ、基本姿勢なり。

５　オリジナルを目指す

自分なりの表現方法を探り、あらゆる工夫をこらして、オリジナルな文章や通信を目指す。

もちろん出来ている自信はありませんが、今回の２００号発行を縁に、あらためて確認をしたい、私の帰るべき原点です。

拝

『生きる』２００号＆お寺の活動の**あゆみ**

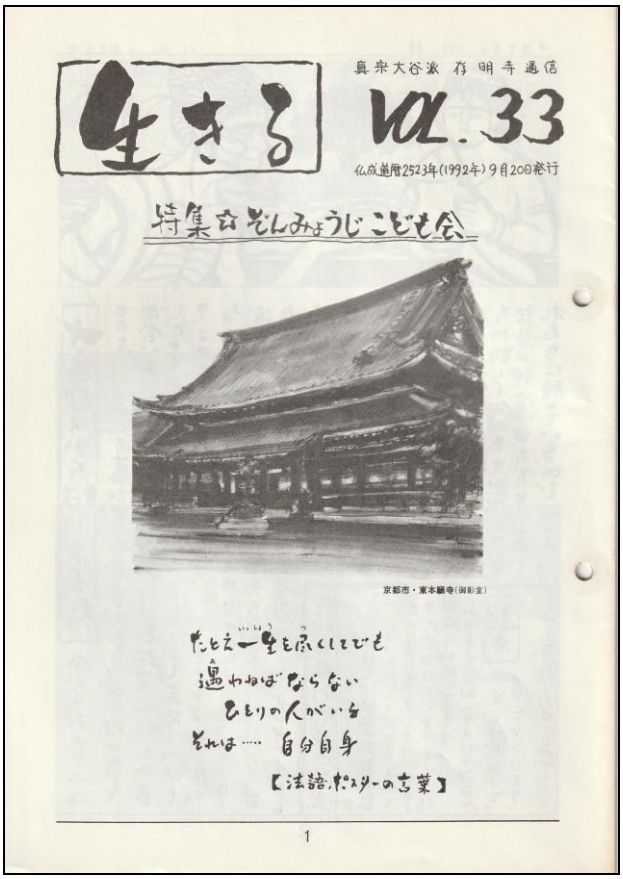
1986（昭61）　生きる誌の創刊号発行。おみがきの集い始まる。
1989（平元）　第１回存明寺帰敬式を行う、77名が受式。
1991（平３）　存明寺旅行会が始まる。
1992（平４）　ぞんみょうじこども会が始まる。
　　住職と坊守が結婚。（私事で恐縮です）
1995（平７）　生きる誌の50号を発行。
1996（平８）　京都への真宗本廟奉仕団が始まる。
1997（平９）　存明寺に新客殿が完成。前住職逝去。
1998（平10）　存明寺にて蓮如上人五〇〇回忌法要を行う。
　　現住職・酒井義一が住職に就任。ＨＰ始まる。
2000（平12）　毎月の聞法会である「樹心の会」が始まる。
2004（平16）　生きる誌の１００号を発行。
2007（平19）　グリーフケアのつどい・青年のつどい始まる。
2011（平23）　親鸞の御遠忌（本山）・東日本大震災起こる。
2012（平24）　生きる誌の１５０号を発行。
　　子育てサロンいちごのへや始まる。
　　存明寺にて親鸞聖人七五〇回御遠忌法要を行う。
2015（平27）　こども食堂始まる。新納骨堂完成。
2019（令元）　前坊守逝去。
2020（令２）　新型コロナウイルスの感染拡大。
　　お寺の行事、中止相次ぐ。オンライン法話開始。
2021（令３）　生きる誌の２００号を発行。

↑４０号（1993 年）カットやマンガを切り貼りして。

↑創刊号（1986 年）この頃は手書きの通信でした。

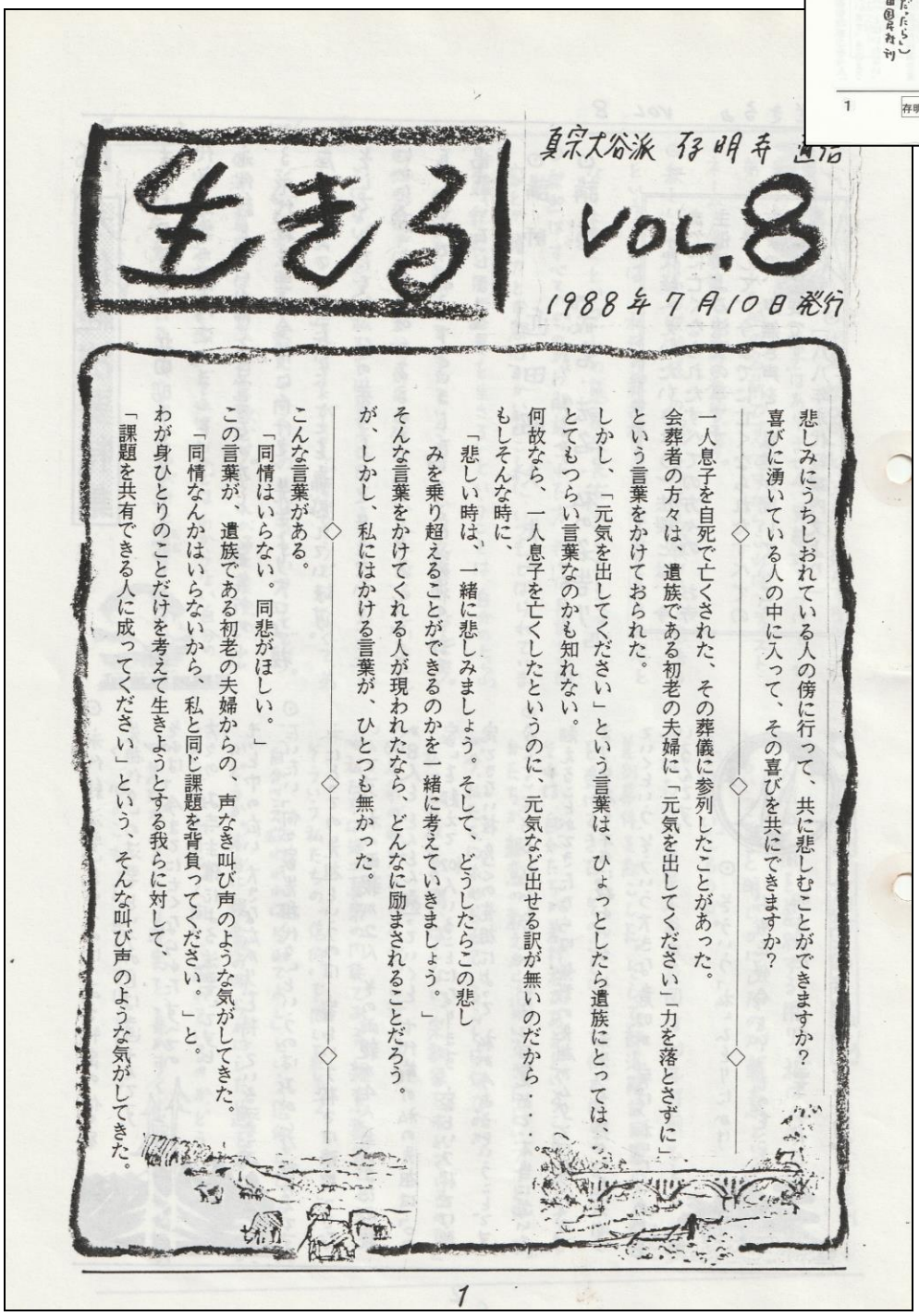
↓７４号（1999 年）この頃から活字になりました。

↓３３号（1992 年）この年からこども会がスタート。



記念すべき 100 号は　　→
2004 年のことでした。
その時、住職は 45 歳。
写真は、お釈迦様の生誕地、
ルンビニ（ネパール）にて。

↓ 8 号（1988 年）
この頃の『生きる』はお寺で両面コピーをしていました。
それは…紙づまりとのたたかいでもありました。



生きる

真宗大谷派 存明寺 通信

VOL.8

1988年7月10日発行

悲しみにうちしおれている人の傍に行って、共に悲しむことができますか？
喜びに湧いている人の中に入って、その喜びを共にできますか？

◇

一人息子を自死で亡くされた、その葬儀に参列したことがあった。
会葬者の方々は、遺族である初老の夫婦に「元気を出してください」「力を落とさずに」という言葉をかけておられた。
しかし、「元気を出してください」という言葉は、ひょっとしたら遺族にとっては、とてもつらい言葉なのかも知れない。
何故なら、一人息子を亡くしたというのに、元気など出せる訳が無いのだから・・・。
もしそんな時に、
「悲しい時は、一緒に悲しみましょう。そして、どうしたらこの悲しみを乗り超えることができるのかを一緒に考えていきましょう。」
そんな言葉をかけてくれる人が現われたなら、どんなに励まされることだろう。
が、しかし、私にはかける言葉が、ひとつも無かった。

◇

こんな言葉がある。
「同情はいらない。同悲がほしい。」
この言葉が、遺族である初老の夫婦からの、声なき叫び声のような気がしてきた。
「同情なんかはいらないから、私と同じ課題を背負ってください。」と。
わが身ひとりのことだけを考えて生きようとする我らに対して、
「課題を共有できる人に成ってください」という、そんな叫び声のような気がしてきた。

1

生きる

真宗大谷派　存明寺通信

NO.180

2017年（仏暦2548年）9月9日発行

無明長夜の燈炬なり
智眼くらしとかなしむな
生死大海の船筏なり
罪障おもしとなげかざれ

親鸞　正像末和讃

仏さまの教えは
まるで暗くて長い夜を
照らしつづける光のようだ
「何も見えない！」と
悲しむだけで終わってはいけない
仏さまの光は
まるで大荒れの広い海を
どっしりとわたる船のようだ
「罪深く　悪重い…」と
嘆くだけで終わってはいけない
この教えに出会ってほしい
出会わずに終わってはいけない
（訳：酒井義一）

特集　青年のつどい2017

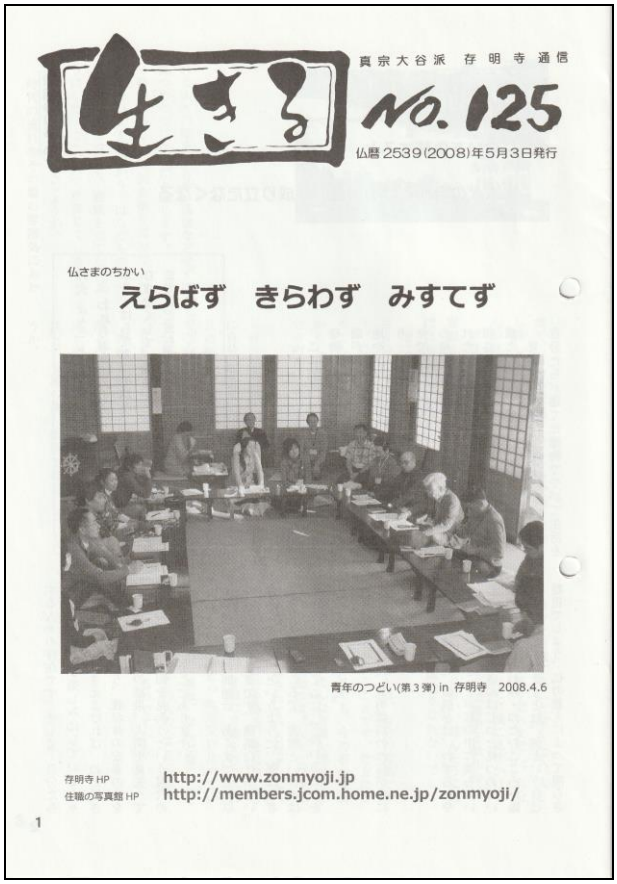
写真提供：禹橋昭彦さん（存明寺世話人）

存明寺HP、随時更新中　親鸞と出遇うお寺

http://www.zonmyoji.jp

1

↑１８０号（2017年）この頃に紙面がカラーへ。



生きる

真宗大谷派　存明寺通信

NO.125

仏暦2539(2008)年5月3日発行

仏さまのちかい

えらばず　きらわず　みすてず

青年のつどい(第3弾) in 存明寺　2008.4.6

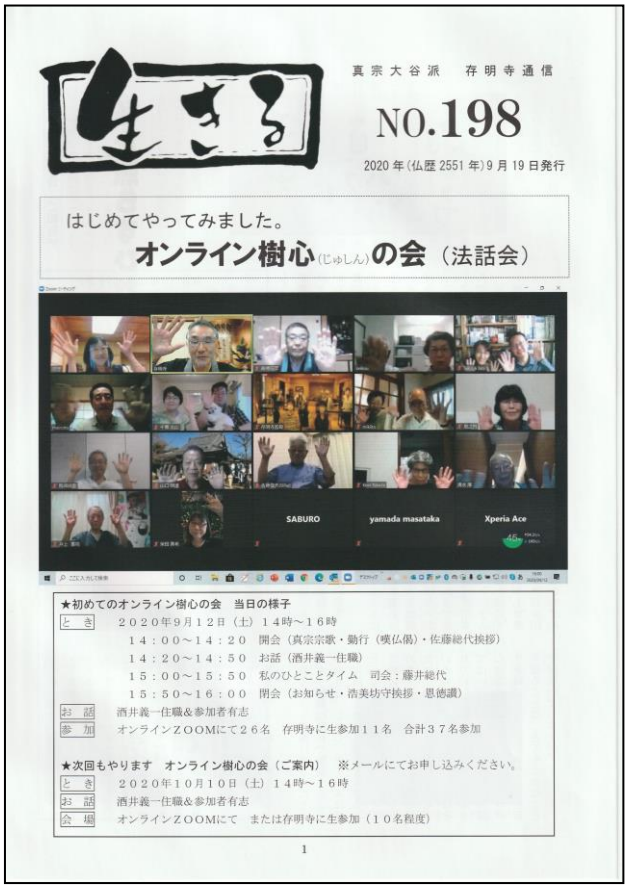
存明寺HP　http://www.zonmyoji.jp

住職の写真盤HP　http://members.jcom.home.ne.jp/zonmyoji/

1

↑１２５号（2008年）青年のつどいが始まりました。

↓１９８号（2020年）初のオンライン法話会。



生きる

真宗大谷派　存明寺通信

NO.198

2020年（仏歴2551年）9月19日発行

はじめてやってみました。

オンライン樹心(じゅしん)の会（法話会）

SABURO　yamada masataka　Xperia Ace

★初めてのオンライン樹心の会　当日の様子

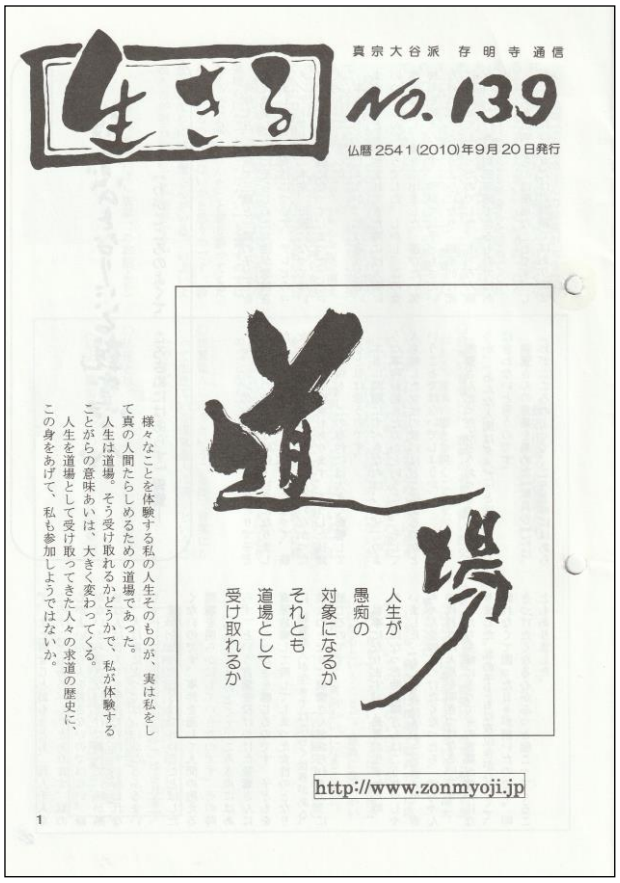
とき	２０２０年９月１２日（土）１４時～１６時
	１４：００～１４：２０　開会（真宗宗歌・勤行（嘆仏偈）・佐藤総代挨拶）
	１４：２０～１４：５０　お話（酒井義一住職）
	１５：００～１５：５０　私のひとことタイム　司会：藤井総代
	１５：５０～１６：００　閉会（お知らせ・浩美坊守挨拶・恩徳讃）
お話	酒井義一住職＆参加者有志
参加	オンラインＺＯＯＭにて２６名　存明寺に生参加１１名　合計３７名参加

★次回もやります　オンライン樹心の会（ご案内）　※メールにてお申し込みください。

とき	２０２０年１０月１０日（土）１４時～１６時
お話	酒井義一住職＆参加者有志
会場	オンラインＺＯＯＭにて　または存明寺に生参加（１０名程度）

1

↓１３９号（2010年）お寺は聞法の道場です。



生きる

真宗大谷派　存明寺通信

NO.139

仏暦2541(2010)年9月20日発行

道場

人生が
愚痴の
対象になるか
それとも
道場として
受け取れるか

様々なことを体験する私の人生そのものが、実は私をして真の人間たらしめるための道場であった。
人生は道場。そう受け取れるかどうかで、私が体験することがらの意味あいは、大きく変わってくる。
人生を道場として受け取ってきた人々の求道の歴史に、この身をあげて、私も参加しようではないか。

http://www.zonmyoji.jp

1

１５０号は2012年のこと。住職53歳。　→
親鸞聖人のご遠忌に集中していた頃です。

↓　親鸞聖人の750回御遠忌法要の年に、東日本大震災が起こりました。
苦しみや悲しみの中で、親鸞聖人と出遇う時間が流れていきました。

生きる　NO.142
真宗大谷派　存明寺
仏暦2542（2011）年3月18日発行

人の世に熱あれ　人間に光あれ

『全国水平社宣言』より

二〇一一年三月十一日（金）午後二時四十六分。
大きな地震が私たちの国を襲った。
親鸞聖人の御遠忌が始まる直前のことだった。

次々と明らかになる被害の実態は、
目を覆いたくなるような惨状だ。
ただ、ただ、言葉をなくして、
現実の前にたたずむような感覚だ。

多くの人がいのちを失っていった。
多くの人が大切な人を失っていった。
多くの人が家や故郷を失ってしまった。

同じ時代を生きる私には、
いったい何が問われているのだろう。
いったい何をしなければならないのだろう。

震災から問われる御遠忌を迎えたのだ。
震災から私の生きる姿勢が問われているのだ。
そのような時を私たちが迎えたことを、
ここに人々と共に確認したい。　（釋諦信）

東北関東大震災
2011. 3. 11

◆本山（京都東本願寺）の御遠忌
二〇一一年（平成二十三年）
三月十九日～五月二十八日

◆存明寺の御遠忌
二〇一二年（平成二十四年）
十一月二日（金）・三日（土）

http://www.zonmyoji.jp

1

言葉によって振り返る・・・　寺報『生きる』の言葉から

■地球の一年（23号　1991年）

地球が誕生して46億年。生物の誕生は35億年前。人類の誕生は15万年前。これを一年という期間に縮めてみたい。

1月1日に地球誕生。生物の誕生は3月下旬、人類の誕生はなんと12月31日の午後6時17分。

さて新年。地球の歴史から見ればほんの一瞬の出来事。しかし私たちにとっては大切な時の始まり。

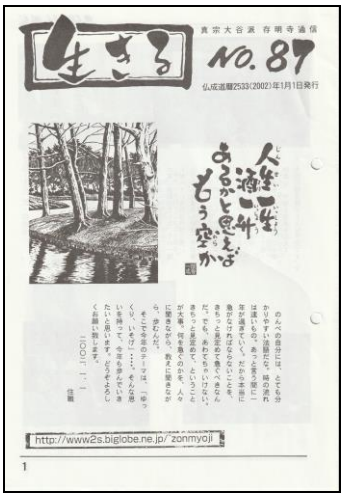
「あの時代に人類は道を誤ることなく確実に現実を見極め、誇り高き時を過ごした。」　未来の地球がそう語ってくれるように、歩んでいきたい。

■人生一生（87号　2002年）

人生一生　酒一升
あるかと思えば
もう空か

のんべの自分には、とても分かりやすい法語。時の流れは速い。あっという間に一年が過ぎていく。だから本当に大切なことをきちっと見定めて急ぐべきなんだ。でも、あわてちゃいけない。きちっと見定めて、ということが大事。何を急ぐのかを、人々に聞きながら、教えに聞きながら、歩むんだ。

今年のテーマは「ゆっくり、いそげ」。そんな思いをもって、歩んでいきたい。



■耳をすます（111号2006年）

広島・栃木の女児殺害、耐震強度偽装。まるで相手を人間と見ないかのような悲惨な事件や出来事は、時代が病んでいる何よりの証拠。今もなお、たくさんの悲しみや苦しみを生み出し続けている。

じっと目をこらす。それら悲しみの現実から私を呼ぶ声が聞こえてこないだろうか。「いまひとたび温かな血の通った人間に立ち帰れ」と。

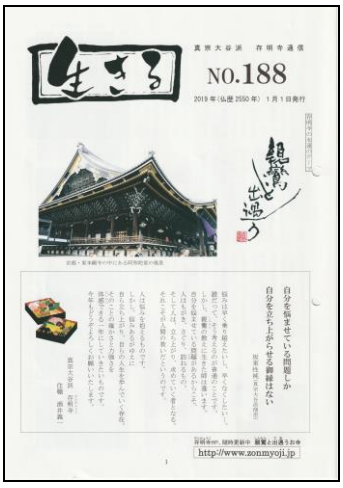
耳をすます
―私を人間に呼び戻す声に―

■親鸞（しんらん）と出遇（であ）う（188号　2019年）

自分を悩ませている問題しか
自分を立ち上がらせる
ご縁はない

悩みは早く乗り越えたいし、早くなくしたい。誰だってそう考える。しかし、親鸞の教えは違う。自分を悩ませている問題があるからこそ、人はもがき、たずねる。そして、立ち上がり、求めていく者となる。それこそが人間の救いだというのだ。

人は悩みを抱える。しかし、悩みあるがゆえに、自ら立ち上がり、歩んでいく存在。親鸞と出遇うべき存在。そのことの確かさを体感していきたい。



お寺のひろば　２０２１年（令和３年）

お寺のひろば　2021

3月13日（土）　14時　樹心の会（荒山淳先生）
　オンライン＆生参加にて開催。
3月16日（火）　13時　おそうじの日
　1時間半程度、境内のみにて開催。
3月20日（土）　11時のみ　春のお彼岸法要
　時間短縮・距離を確保して開催。
3月27日（土）　14時　グリーフケアのつどい
　時間短縮（2時間）、人数は10人程度にて。
4月10日（土）　14時　樹心の会
　オンライン＆生参加にて開催。
4月28日（水）　10時　おみがきのつどい
　1時間半程度、距離を確保して開催。
5月3日（月）　11時　永代経法要
　時間短縮、距離を確保して開催。
5月15日（土）　14時　樹心の会
6月12日（土）　14時　樹心の会
　いずれもオンライン＆生参加にて開催。
6月26日（土）　14時　グリーフケアのつどい
　時間短縮（2時間）人数は10人程度にて。
7月10日（土）　11時　新盆法要
　時間短縮＆規模縮小して開催。
7月13日（火）　11時のみ　お盆法要
　時間短縮・距離を確保して開催。

★お寺では、新型コロナウイルス感染対策として、①マスク着用、②検温、③消毒、④手洗い、⑤距離の確保、⑥換気を徹底します。

あとがき

▼存明寺通信『生きる』誌、ついに２００号となりました。しかし、それは到達点ではなく、あくまでも通過点です。その通過点で迎えたコロナという時。２０２１年、私はこの年を次のように位置付けたいと思います。

▼それは…題して「いずれコロナが収束した時に備えて、感染予防を徹底しつつも、人と人とが触れ合うためのお寺の活動復活へ向けてのウォーミングアップをする年」です。ちょっと長いですね。

▼コロナによって今まで自分たちが大切にしてきたことが消え去ってしまうのでは、という不安を感じている人は少なくないはずです。実は私もそのひとりです。

▼今、お寺への参詣は少なく、儀式は簡略化され、いろいろな教化活動も密を避けざるを得ません。この先一体どうなるのだろうと思うこともあります。

▼しかし２５００年間、仏さまの教えは、人々の苦しみや悲しみを通して伝わってきたという歴史があります。この歴史を消し去ってはなりません。

▼ということで２００号は通過点、目指すのは「人間の苦悩を縁として、仏さまの教えに出遇う」という仏教の王道の実践です。

▼だから…「あ～ゆみは、つづく～よ～、ど～こまでも～」なのです。

▼御身どうぞご自愛ください。

（住職・釋諦信）

8月以降のお寺のひろば　2021

※詳しい内容は6月以降にご案内いたします。

8月28日（土）午後　青年のつどい
9月11日（土）　14時　樹心の会
9月17日（金）　13時　おそうじの日
9月23日（木）　11時と13時　秋のお彼岸法要
9月25日（土）　14時　グリーフケアのつどい
10月9日（土）　14時　樹心の会
10月29日（金）　10時　おみがきのつどい
11月2日（火）　14時　報恩講のゆうべ
3日（水）　12時　報恩講法要
11月13日（土）　14時　樹心の会
12月4日（土）　14時　グリーフケアのつどい
12月11日（土）　14時　樹心の会
期日未定　真宗本廟奉仕団（京都・東本願寺）
こども食堂・子育てサロン・こども会も実施。

東京都世田谷区北烏山4-15-1
真宗大谷派 存明寺
住職　酒井 義一（釋諦信）
〒157-0061　TEL 03-3300-5057
FAX 03-3300-5880
E-mail：sakai@zonmyoji.jp